

第48回



共に働くまちを拓くベンキョウ会

お葬式のサポーターってなんだ？

話し手

佐藤 春江 さん

(NPO法人埼玉葬送サポーターセンター代表)

そもそもお葬式ってなんでしようか？

大昔、人が死んでもすぐには埋葬せず、死者と食事をともにし、死を嘆き悲しみ、歌い踊って死者の霊を慰めること（もがり）が行われていたといわれます。

ただ、民衆はずっと後の時代まで、そうしたこともなく、墓も持たず、野山に埋めたり、河原や道に放置されていました。鎌倉時代の終わりごろ、百姓や他の産業従事者たちが水や道の管理、紛争からの自衛のための自治共同体（惣村・そうそん）を形づくると、宗教行事も村で行うようになりました。江戸幕府は、これを支配の手段として用いる檀家制度を制定し、家ごとに墓をもつようになってゆきました。

明治になり、都市化が進み、市街地に墓地が作れなくなりました。さらにはそれまでの葬列をやめ、屋内に祭壇を飾るようになりました。さらに戦後は、民衆の中に葬儀を自ら行った経験が少なくなり、葬儀社任せにする傾向が強くなりました。核家族化が進んだこの頃では、簡素化、個人化が進み、斎場利用が増えてきました。

共に生きてきた存在を喪った悲しみを編み直し、死者と共に生き続けるための「もがり」の意味は、いまの社会でも小さくはないと思います。しかし、いざとなった時、親族、近隣、仕事などの社会関係や、火葬や埋葬など遺体処理などを含めて、どうしたらいいのか判断に迷うものです。それも「もがり」の一部でしょう。

そんな迷いに寄り添うサポーターを仕事とするワーカーズ・コレクティブの代表・佐藤春江さんの体験と意見をうかがいます。

9月26日（木）
18：30～21：00

越谷市中央市民会館
5階 第7会議室

会費 200円（資料代共）

終了後、時間のある方は
ファミレスでおしゃべり
しましょう。

NPO法人障害者の職
場参加をすすめる会
048-964-1819
職場参加ビューロー
世一緒（よいしょ）